

SHS International Letter Feb.

2024 年が始まり早くも 1 か月が過ぎました。年明けから、令和 6 年能登半島地震や羽田空港での事故などが相次ぎました。被災、被害にあわれた方々に、心よりお見舞い申し上げます。

さて、今月号は 2023 年 10 月 28 日(土)に名古屋外国語大学で行われた「第 35 回中国語スピーチコンテスト」と、12 月 9 日(土)に愛知大学で行われた『江蘇杯』中国語スピーチコンテスト中部東海地方大会に出場した本校生徒と、指導を担当した本校中国語教員を紹介します。

また、本校 3 年生有志が 2023 年 12 月 11 日(月)～15 日(金)にかけて実施した国際理解教育展示の様子をご紹介します。



中国語スピーチコンテスト



<第 35 回中国語スピーチコンテスト ～名古屋外国語大学～>

2023 年 10 月 28 日、名古屋外国語大学第 35 回中国語スピーチコンテストが日進キャンパス 511 教室で開催されました。

コロナ禍の関係で、2020 年には開催できず、2021 年にはビデオファイル投稿方式で開催しました。そして、2022 年度からは、ようやく対面での開催となりました。さらに、今大会からは、昨年度まで自粛していた出場者以外の 1, 2 年生などの見学者も、参加し開催することができました。

(名古屋外国語大学外国語学部中国語学科 HP より引用)



<江蘇杯中国語スピーチコンテスト 中部東海地方大会>

2023 年は、日中平和友好条約を締結して 45 周年という記念の年です。第 9 回目となる今回は、約 4 年ぶりの対面形式で行います。

今大会は、中部東海地区の高等学校、大学および南京大学の一部提携大学に在籍する学生を対象に、江蘇国際文化交流センター、南京大学(いずれも中国・南京市)と愛知大学の協力のもと開催しています。

(愛知大学国際交流課 HP より引用)



<本校出場生徒・スピーチ指導教員>



左から

星野七海さん(清須市立 春日中学校出身)
望月優花さん(蟹江町立 蟹江中学校出身)
春日井結理さん(一宮市立 北部中学校出身)
杉本麻依さん(弥富市立 十四山中学校出身)
則竹日菜子さん(一宮市立 大和南中学校出身)

～生徒代表者 コメント～ (原文のまま掲載)

中国語を授業で勉強していますが、このスピーチコンテストでたくさん中国語を練習したことで、さらに中国語の面白さや楽しさを知ることができました。

第35回中国語スピーチコンテスト「高校朗読大会」優秀賞

星野七海さん(清須市立 春日中学校出身)



張雨 先生

On Our Way Home at Seirinkan

～写真展&ウクライナ支援～

昨年の12月11日から15日にかけて、本校の保護者会期間中にウクライナの人々のポーランドへの避難とその道のりや現状を伝えるための写真展が開催されました。

発起人は本校国際コース3年生の仲原壮汰君です。避難家族のストーリーに寄り添った写真展を通して、人々の「強さとあたたかさ」を確認し、ウクライナの現状と平和について「自分ゴト」として考えてもらう機会を作りたいという思いから、彼はこの企画を起案しました。



“On Our Way Home”とは、ウクライナ出身の写真家 Iryna Myronenko 氏がウクライナから避難した家族の写真とインタビューを取めた作品であり、ポーランドのガリシア・ユダヤ博物館で開催された写真展をもとにしています。

展示作品は、日本財団ボランティアセンター主催 The Volunteer Program for Ukraine が、東京の代官山で開催した写真展覧会で展示されたものだそうです。

企画は発起人の仲原壮汰君を中心に、彼の想いに賛同した生徒たちが主体となって進められました。より良いものになるように話し合いを重ね、活発に意見が交わされました。展示方法や、保護者の方への周知方法、受付などの役割分担等について自分たちで企画し実行に移していきました。さらに、この企画を通して、ウクライナの人たちへの支援活動も行いたいという思いから、メッセージを集め、募金活動にも取り組みました。



彼らの活動の甲斐あって、多くの生徒と保護者の皆さんがこの写真展に来場されました。さらに、メッセージや募金も、予想以上に集まりました。こうした活動が後輩たちにも受け継がれ、国際社会に目を向ける機会が増えることを期待したいと思います。



↑企画・運営に携わった生徒たちです↑

Interview

主催をさせていただきました，3年4組の仲原壮汰です。

初めに，このたびは写真展へのご来場そして寄付へのご協力，誠にありがとうございました。

今回のような前例のない写真展を開催できたのは，先生方をはじめ，有志のメンバー，写真家 Iryna Myronenko 氏，原主催の Galicia Jewish Museum 様のご協力・ご尽力によるものです。感謝申し上げます。

2022年2月24日，ロシアのウクライナ侵攻が始まった日，私たち国際コース3年生有志のメンバーはカナダやアメリカに長期留学をしている最中でした。

今日の侵攻が世界へ与えた影響を身をもって経験した私たちはできることを模索し，このたびの写真展を通して，ウクライナ支援の輪を広げていこうと考えるに至りました。写真展の開催や寄付，メッセージを書いた旗を届けることで，少しでもウクライナ避難民の方々の生活の安定と，精神的支援に繋がれば幸いです。

世界情勢が非常に不安定な現状ですが，一日も早く平和を取り戻されることをお祈り申し上げます。



募金報告

総額 52,410 円

寄贈先 NPO 法人
特定非営利活動法人

日本ウクライナ文化協会

17,470 円

日本ウクライナ友好協会

17,470 円

国連 UNHCR 協会

17,470 円

これは埼玉県川口市で日本ウクライナ友好協会に旗を渡したときのものです。



On
Our
Way
Home
at Seirinkan



ウクライナ避難民の
写真展



原主催
Galicia Jewish museum



写真家
IRYNA MYRONENKOさん

今月号もお読みいただきありがとうございました。次号をお楽しみに。